

障害福祉サービス事業所アンケート 調査結果

令和 8 年 4 月
印西市

目 次

1 調査の目的及び実施概要.....	2
2 調査結果	
（1）今後 3 年間のサービス利用人数の見込み.....	3
（2）事業所における人員の充足度.....	3
（3）人員不足によるサービスの提供の制限.....	4
（4）今後採用を検討している人材.....	4
（5）人材の採用や定着、離職防止のために最も重要だと考えること.....	5
（6）人材採用のために市に期待する支援.....	6
（7）障害福祉サービスを提供するうえでの主な課題.....	8
（8）（7）の課題を解決するために市に期待する支援.....	9
（9）利用者から寄せられる主な課題や悩み.....	12
（10）災害時の対策として事業所で備えていること.....	14
（11）災害対策を進める上での課題.....	15
（12）地域で障がいのある人に対する理解を深めるために、必要だと思われること.....	17
（13）市の障がい福祉施策について、日頃感じていることや意見.....	19
※以下は児童発達支援・放課後等デイサービス事業所のみ対象	
（14）2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 1 月）の空き状況.....	21
（15）利用者の受入人数を増やすことについて.....	21
（16）専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の採用.....	22
（17）専門職の採用における課題.....	22
（18）専門職の採用を増やすために効果的な支援.....	22
（19）学校や幼稚園、保育園との連携（情報交換など）.....	23
（20）学校や幼稚園、保育園との連携を進めるにあたっての課題.....	24
（21）事業所間の交流の状況.....	25
（22）市子ども発達センターに期待すること、取り組んでほしいこと.....	26

I 調査の目的及び実施概要

(1) 目的

次期障がい者プラン（R9～R11）の策定にあたり、障がい者施策の現状と課題を把握し、計画策定の基礎資料とするため。

(2) 期間等

①期間

令和8年2月6日～令和8年3月6日

②対象事業所

市内の障害福祉サービス事業所で、令和7年12月1日時点で千葉県の手帳に登録されている事業所

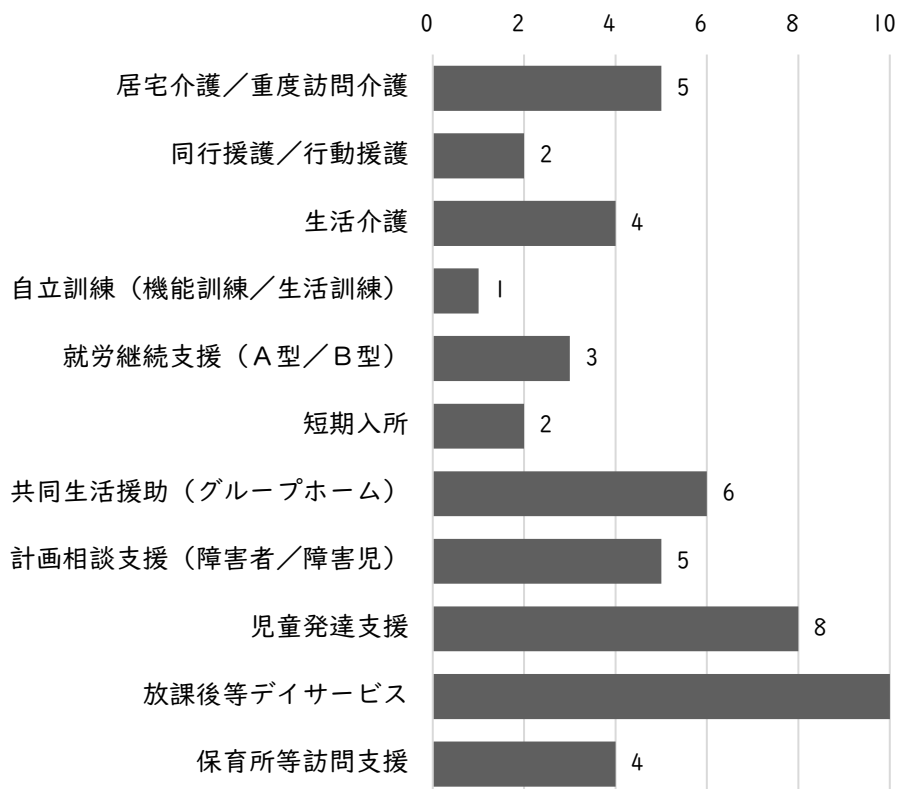
③調査方法

「ちば電子申請サービス」にアンケート回答フォームを設定

(3) 回答状況

配布数	回答数	回答率
67	31	46.2%

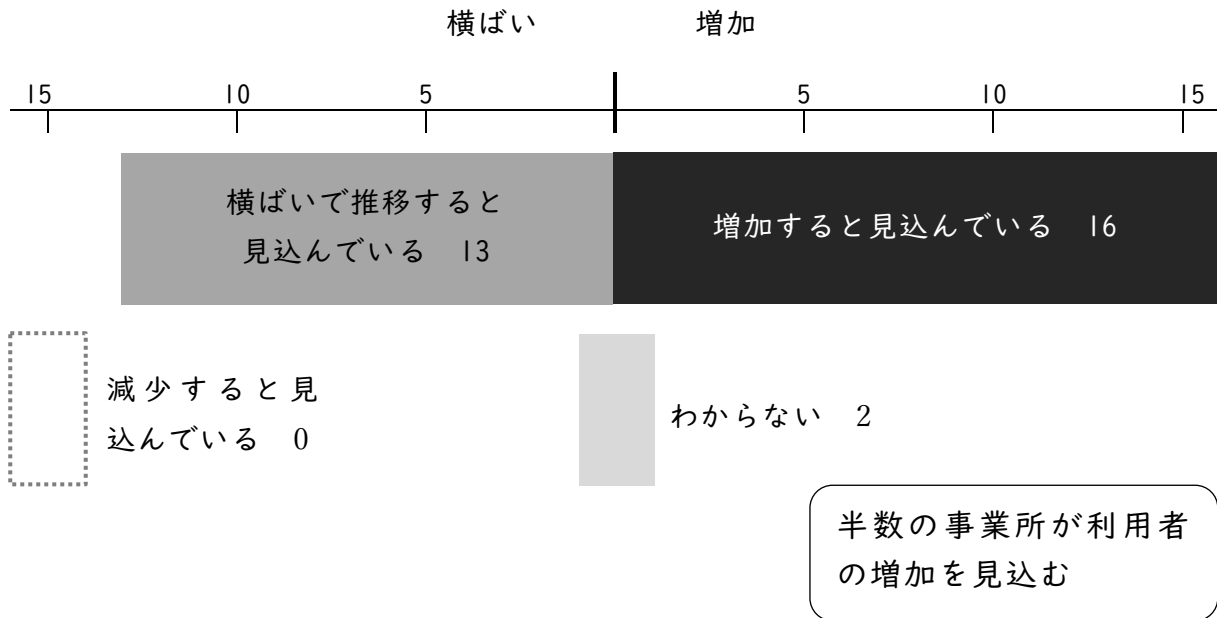
(4) 回答した事業所が提供しているサービス



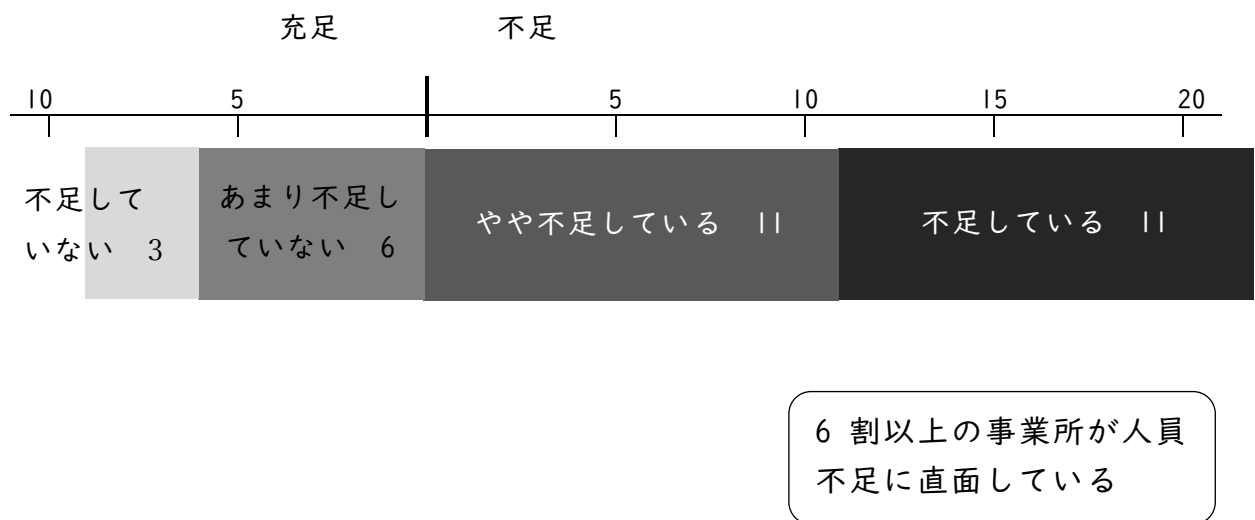
※複数のサービスを提供している事業所があるため、回答数の合計とは一致しない

2 調査結果

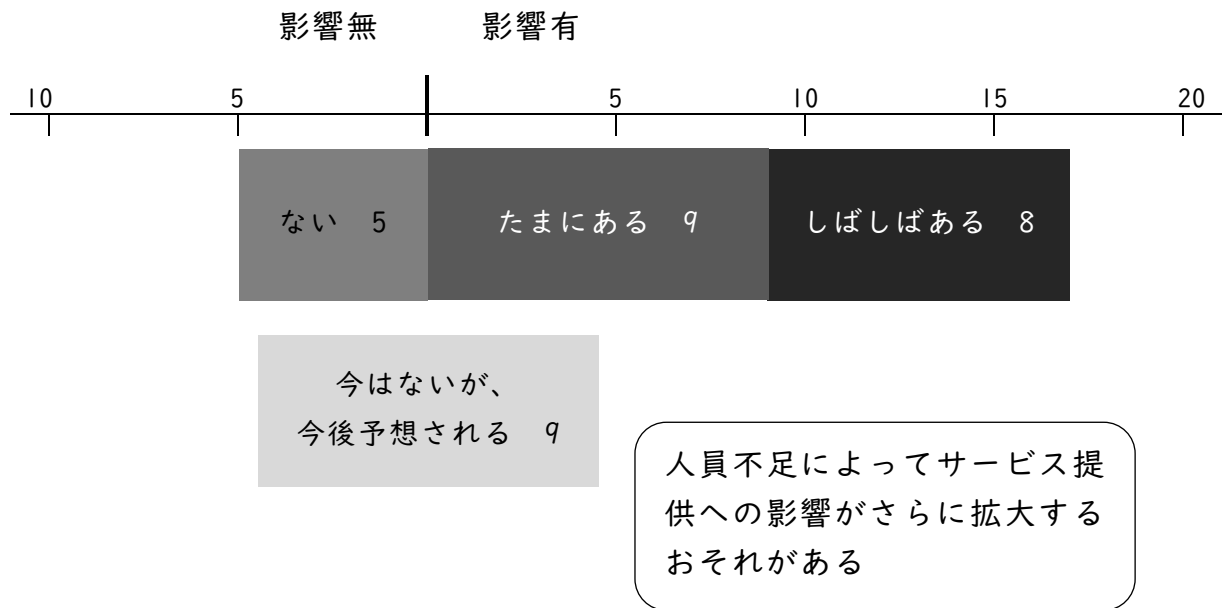
(1) 今後3年間のサービス利用人数の見込み



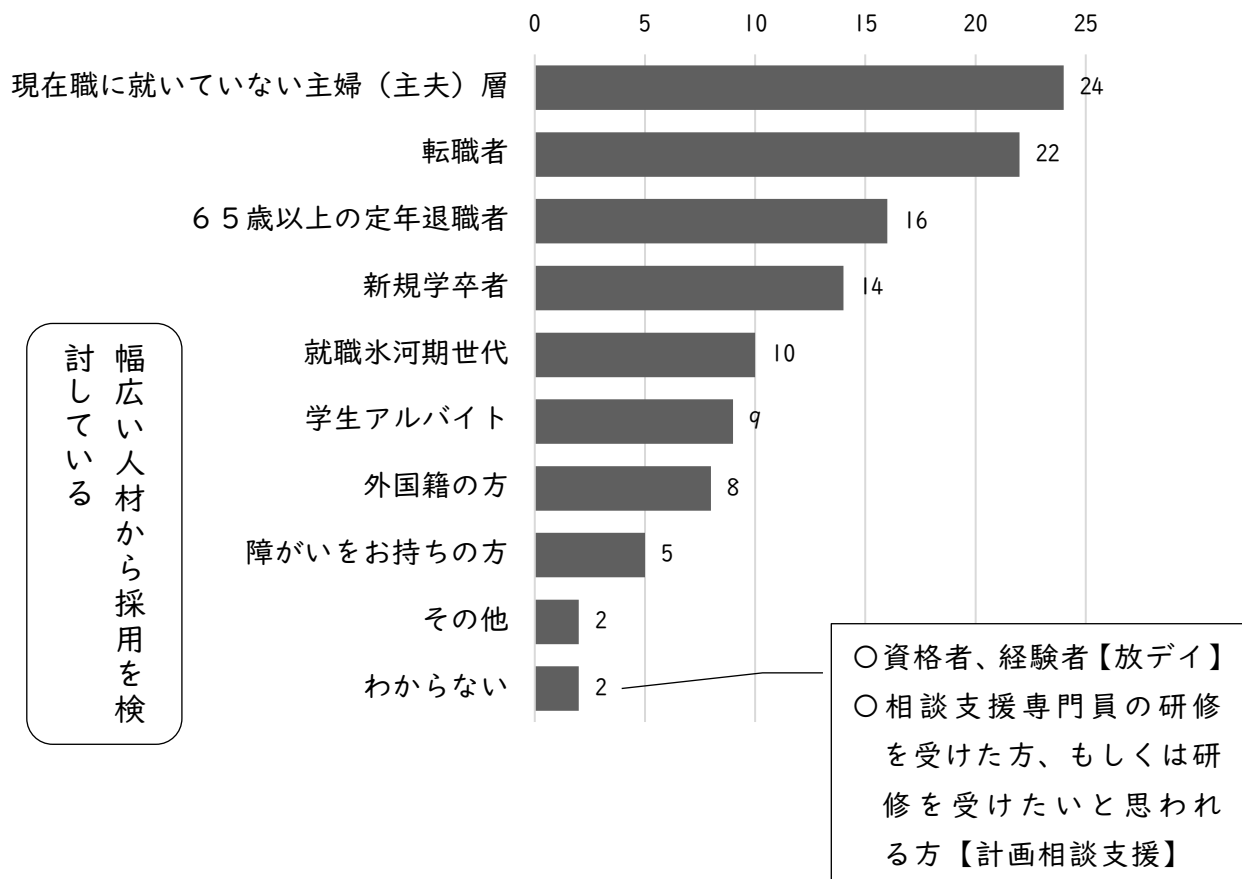
(2) 事業所における人員の充足度



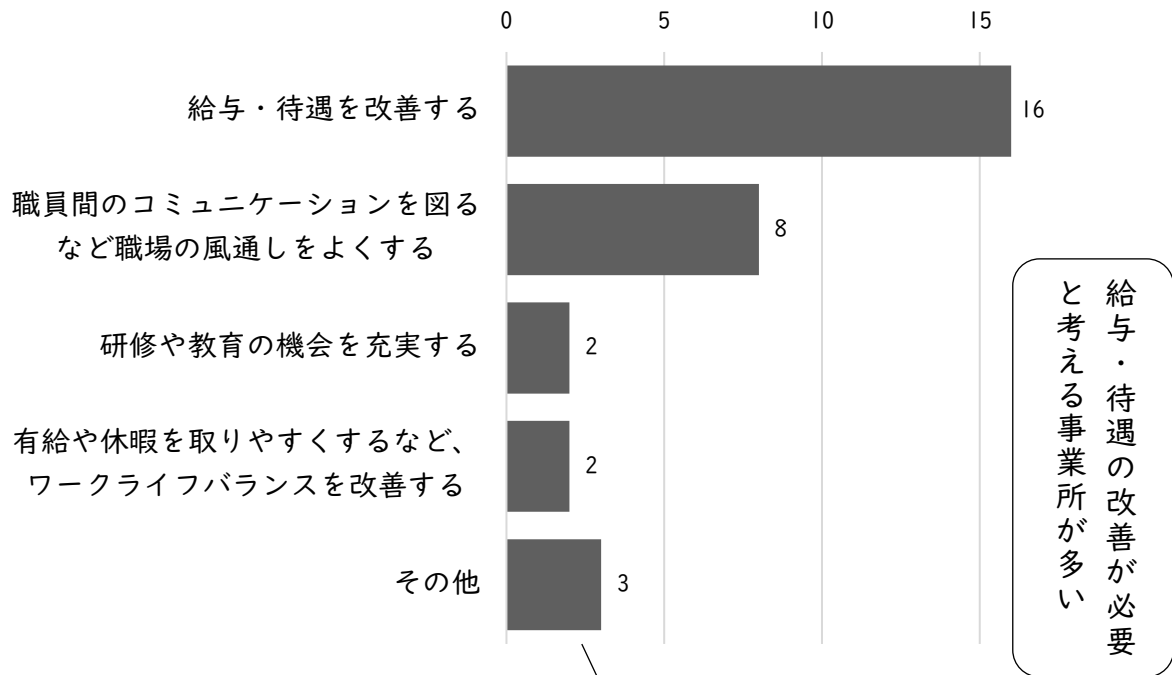
(3) 人員不足によるサービスの提供の制限



(4) 今後採用を検討している人材（複数回答）



(5) 人材の採用や定着、離職防止のために最も重要だと考えること



- 登録ヘルパーが充実すれば働きやすくなる【居宅介護】
- 仕事の内容の理解、やりがい、当該の仕事に対する興味・関心が重要【児発・放デイ】
- 給与・待遇を改善すると共に、有給や休暇を取りやすくする【居宅介護】

(6) 人材採用のために市に期待する支援（自由記述）

【主な内容】

①助成／補助金等	②情報発信等	③イベント等
・奨学金返済助成 ・大学の学費助成 ・国家資格取得助成 ・空き家を低額で賃貸 ・療育施設への保育士手当 ・新規就労者の家賃補助 ・有資格者採用に係る補助	・「いんざいお仕事探しナビ」の充実と周知 ・シルバー人材紹介センターを通じた夜勤者の紹介 ・福祉の仕事の魅力発信	・大学・高校と連携した障害福祉事業所の体験会 ・農福連携のマッチング、助成 ・保育士や教員などの資格保持者のリスト作成および就職説明会 ・障がい福祉サービスと働きがいについてのセミナー

【回答内容】

①助成／補助金

- ・学生ローン(奨学金)の返済助成【就労継続支援】
- ・学卒後の新規就労者支援として家賃補助や空き家を低額で貸す助成【就労継続支援】
- ・市内中学生、高校生向けに将来、市内事業所での福祉従事者になることを条件に高校、大学の学費の助成制度を創設する【就労継続支援】
- ・福祉系国家資格取得に関する助成制度を創設【就労継続支援】
- ・保育士手当を療育施設にも適応してほしい。【児発・放デイ】
- ・有資格者採用にあたり、補助金などがあると、ありがたい【児発・放デイ】
- ・市独自の処遇改善手当などがあると有り難いです【共同生活援助】
- ・補助金等の金銭的な支援【生活介護】

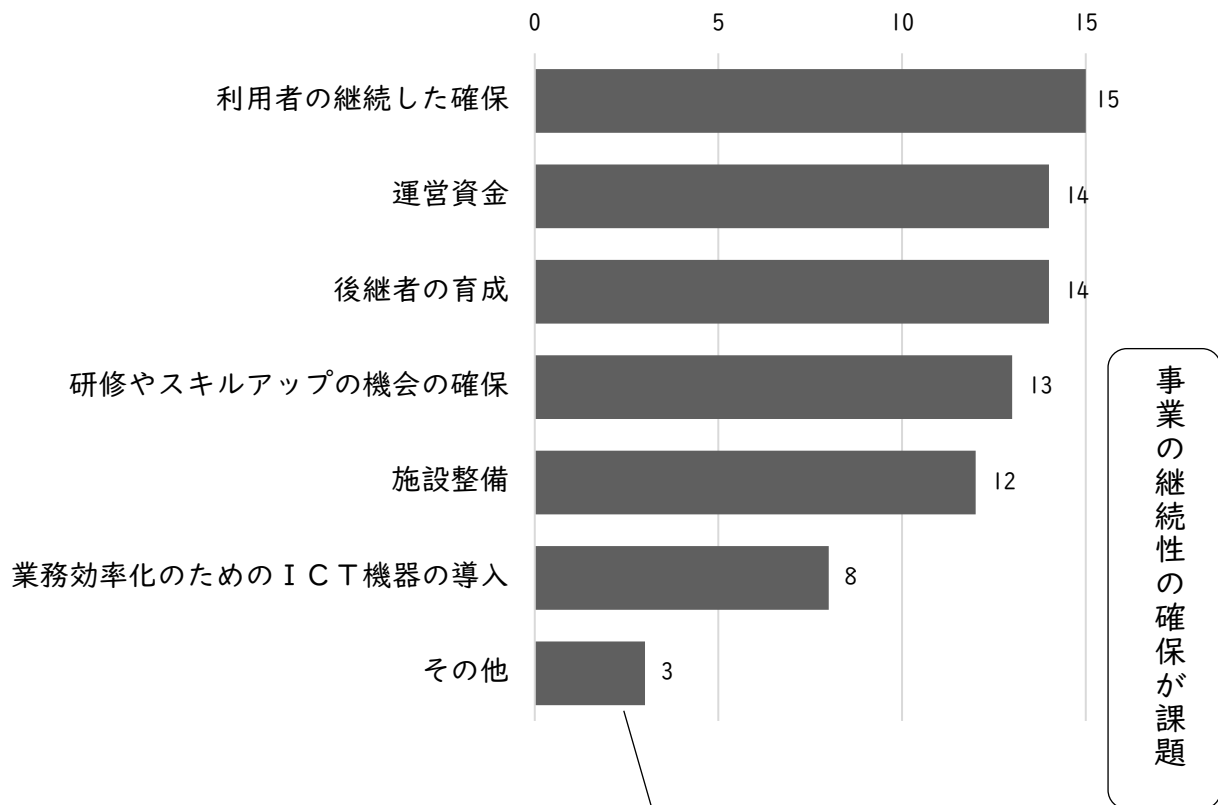
②情報発信

- ・「いんざいお仕事探しナビ」の充実と周知【居宅介護】
- ・シルバー人材紹介センターでは、夜勤の紹介はできないとのことですが、福祉業界では、夜勤は必須のため、就職希望者には紹介できるようにしていただきたい【短期入所】
- ・福祉の仕事の魅力が地域や若い世代に伝わるよう、市からの継続的な情報発信や人材育成への支援を期待【居宅介護】
- ・福祉サービスの充実に繋がる情報を市民の方に伝えてほしい。こんな仕事があることなど【放デイ】

③イベント等

- ・市内高校、大学と連携し、市内の障害福祉事業所の体験会(大学生の介護等体験のようなもの)を企画し、ボランティア体験通じてこの職種に興味を持ってもらう【就労継続支援】
- ・農業福連携を強化し、農業分野からの人材も障害福祉サービスに参入してもらう。この連携により問13(地域で障がいのある人に対する理解を深める)の課題の緩和も期待できる。農福連携を市にマッチング、助成してもらい農業の人手不足を補いながら、障害福祉サービス利用者は工賃の向上につなげる【就労継続支援】
- ・保育士や教員などの資格保持者のリスト作成および就職説明会などの開催【児発】
- ・障がい福祉サービスと働きがいについてのセミナーを民間の事業者と共同で実施し、認知を高める【共同生活援助】

(7) 障害福祉サービスを提供するうえでの主な課題（複数回答）



- 多職種連携【放デイ】
- 福祉業界全体の職員の流動性。研修機会はあっても時間的制約【放デイ】
- 志がある人や団体も、印西市では事業を始める場所がない。賃貸で事業が出来るような物件がない。【放デイ】

(8)(7)の課題を解決するために市に期待する支援

【主な内容】

助成／補助金等	研修等	その他
・施設整備、送迎車への補助 ・運営費補助 ・ICT機器導入・保守に係る補助 ・新規開業者の家賃補助 ・小規模事業者のみに限定している利子補給等の条件撤廃	・多職種連携のための会議や研修 ・事業所の質の底上げ支援 ・関係機関の意見交換の場 ・市独自の同行援護や移動支援の研修 ・義務化されている研修のオンデマンド化 ・障がい特性・虐待防止・支援技術に関する専門研修	・福祉事業目的の空き家や物件の紹介 ・利用者の紹介 ・学校給食センターの利用

【回答内容】

- ・空調や水道、トイレ、厨房設備の老朽化に対する助成 ・送迎車の助成
- ・物価高騰、最賃上昇への助成
- ・ICT機器購入の助成だけでなく、システムがその事業所に合うようになるまで初期設定や保守をサポートするサービスも提供、助成してほしい。
- ・送迎は利用者の障害福祉サービスの促進のためには、必要な支援であるが、車両の維持、燃料、人件費のコストが増大しており経営を圧迫している。特別支援学校では専門の運転手が配置されているようだが、障害福祉サービスでは、時に管理者も送迎にでないとい人手が回らない状況がある。市の循環バスで市内の障害福祉サービス事業所を利用できるようにすることや送迎に関するコストの助成をしていただきたい。
- ・食材費・人件費の高騰、人材確保の困難がある。学校給食センターの利用はできないか？【就労継続支援】
- ・多職種連携できるような会議・研修の開催。【放デイ】
- ・電子機器導入補助【児発、放デイ】
- ・印西市内は、グループホーム用として、事業用に借りることができる物件が非常に少ないため、空き家バンク等で、事業用の賃貸物件を増やして欲しい。【共同生活援助】
- ・必要とする方が適切にサービス利用につながるように、相談支援との連携や制度の周知を期待します。【居宅介護】
- ・必要な方への、個別サポート加算などの評価をきちんと行ってほしい。内容的の説明など不十分に感じます。

- ・手厚いサポートがあるから、安定した気持ちで過ごせている方が多い。保護者は、集団の中のお子さんを把握しきれないなどを理解してほしい。【放デイ】
- ・重度の利用者を受け入れられるよう、事業所の質の底上げ支援を行ってほしい【居宅介護】
- ・ICT 機器導入のための助成制度。【計画相談支援】
- ・解決となるかは分かりませんが、特に児童発達支援においてこども発達センターや相談支援事業所にどの程度の相談がきているのか、こちらでは分からないため、気になることはあります。
- ・関係機関の意見交換の場は大切だと考えます。【放デイ】
- ・補助金の拡充をいただけると有り難いです【共同生活援助】
- ・補助金、仕組み化の研修【児童発達支援】
- ・一部の事業者のみに利用者が流れる不公平を解消するように相談支援事業所の紹介情報について、定期的に照会し、必要に応じて指導いただきたいです。【共同生活援助】
- ・各事業所の利用者状況を定期的に把握してもらい市の窓口に来られたときに、紹介してもらいたいです。また在宅の方についても利用につながるようになると助かります。【生活介護】
- ・研修については、印西市内での機会を増やしていただけると参加しやすいと思われる。
- ・福祉に興味のある人の集いなどもうける。【生活介護】
- ・市内の福祉関連事業所をゆるやかな地区割りなどでグループ化し、情報交換や必要な研修を行うなど、連携できる場を設けてほしい【計画相談支援】
- ・他市のように市独自の同行援護や移動支援の研修を設けてその研修を受けた方は印西市でのサービス提供ができるようにしてもらいたいです。
- ・利用者が適切にサービス選択できる環境整備をお願いしたいです。【居宅介護】
- ・資格を保有している人に資格別どんなお仕事に就ける可能性があるかのロードマップや表みたいなのがあると、求職者自身が自分の可能性に気づいて頂けるかも？と思いました。例えば、鍼灸師の人がサービス管理責任者になる基礎資格になったり、意外な未来が広がったりするかな？と思います。【計画相談支援】
- ・障がい者支援に関わる方が受ける研修の開催【短期入所】
- ・特に運営資金面での支援をお願いしたいと思います。障がい福祉分野はサービス業に該当し、小規模事業者（サービス業では従業員5名以下）でないと印西市の利子補給対象事業者となりませんが、福祉サービスは労働集約型事業ですので従業員数が5名以下で行うことは難しい事業です。
- ・全国的に見て東京都・23区の制度融資の利子補給等の条件は潤沢な財政基盤もあり恵まれておりますが、千葉県は神奈川県・埼玉県に比べても事業者への支援状況は脆弱です。まず、小規模事業者のみ限定している利子補給等の条件撤廃並びに印西市独自の中小事業者支援をご検討願います。【児童発達支援】

- ・義務化されている研修等はオンデマンド化を熱望する。年間を通じて視聴できるとなお助かります。放デイは午後の研修には参加しにくいので、時間を考慮した研修の開催。【放デイ】
 - ・利用者の紹介や資金支援【児発、放デイ】
 - ・利用者・家族との信頼関係を継続的に築ける定着率の高い人材確保
 - ・相談支援・地域連携に強い人材の育成
 - ・広報・説明能力を備えた職員（サービスの内容を分かりやすく伝えられる人材） 人材の安定が、結果として利用者の継続利用につながる。
 - ・施設環境の改善や改善や安全管理を担える管理・運営の人材の育成
 - ・設備更新計画を立てられる中核職員の育成（ハード面生かせる人は結局「人」）
 - ・ICT 機器を活用できる職員への操作研修・導入サポート
 - ・ICT に不慣れな職員へのフォローアップ体制（「機器導入＋人材育成」がセットでないと人材は定着しない）
 - ・障がい特性・虐待防止・支援技術に関する専門研修（人材の質の向上がサービスの質向上に直結）
 - ・以上の要件を満たすためには、人材の確保（簡単に言うと優秀な人材を確保するために資金が必要です）広報などで人を募集してください。【居宅介護、生活介護】
 - ・賃貸で使用している建物が土砂災害警戒区域に指定され、安全のために移転を考えています。合同会社ですが、地域に根ざした事業所を目指しています。新築建物への補助があったらとても助かります。
 - ・地域での研修の機会を多くする。虐待研修は毎年参加しています。近くで研修があったら参加しやすく。事業所の協力関係が多くなると良いと思います。
 - ・市として PR していただくと福祉関係で働く人が増えるかと思います。【就労継続支援】
 - ・市街化調整区域の検討をしてほしい。空き家等が結構散見されるが、福祉事業に使えるように橋渡しをしてほしい。空き家バンクは件数も少ないしほとんど役にたっていない。福祉事業に特化した物件を空き家バンク（福祉）とかのネーミングでやってほしい。福祉事業は広さや立地等の制約があるので空き家ならどこでもできるというものではない。条件にあった物件を福祉事業物件として他の事業に使えないようにして頂けると良い。
 - ・またスタートアップの半年～１年くらいは家賃補助等もしていただきたい。実際に事業が回って収入が安定するまで持ち出しに耐えられる事業者しか算入できないために、資本がある大手が金太郎飴のような事業所を展開するようになっていくと思う。少なくとも印西市に本拠地がある地元の事業者には市の支援をしてほしい。
- 【児発、放デイ】
- ・安定した運営のための助成制度【共同生活援助】
 - ・空き家、テナントなど福祉目的で利用できる物件の紹介は有難い。福祉目的で借りるのはなかなか難しいので。【放デイ】

(9) 利用者から寄せられる主な課題や悩み

【主な内容】

将来	障がいについて	サービス利用関係
・親が高齢化したり、親亡き後の生活 ・就学先の選択、学校卒業後の進路	・(子どもの)自傷行動等への対応、家庭での関わり方	・事業所が少ないことや人員不足などにより、希望通りの利用ができない

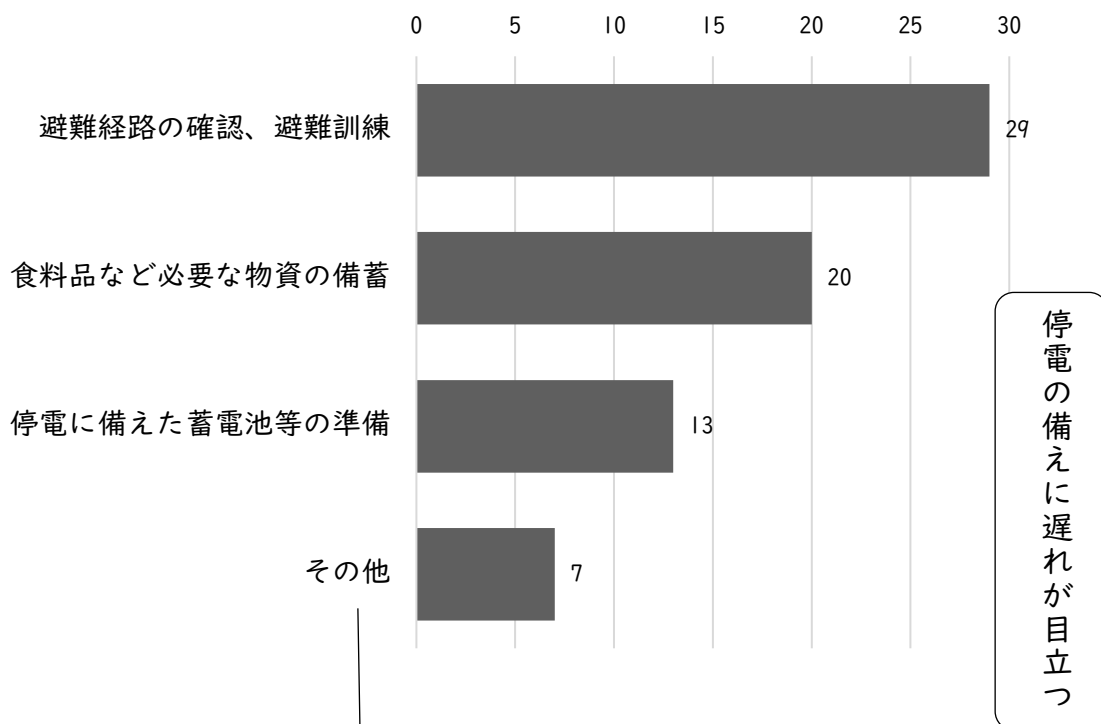
【回答内容】

- ・事業所敷地内の駐車場が狭い【放デイ】
- ・駐車場の確保または補助【児発・放デイ】
- ・工賃が安い ・夏場、エアコンの効きが悪い作業室がある
- ・送迎車が汚い(古い) ・男性更衣室がせまい(人が多すぎる)【就労継続支援】
- ・印西市内は、車がないと不便のため、病院や買い物等の送迎サービスを増やして欲しい。【短期入所・共同生活援助】
- ・制度上できない支援が多く生活上困る場面が多い。支給決定時間が足りない場合がある。【居宅介護】
- ・他害や自傷行動の対応、こだわり行動への対応【放デイ】
- ・「支援者の入れ替えが多く、なかなか定着しない」といった声が挙がっていることが課題【居宅介護】
- ・保護者からは教育機関での悩みが最も多く聞かれます
- ・就学先への悩み、家での関わり方(ペアレントトレーニングの方法)、不登校への対応
- ・利用料の支払方法(PayPay)の導入の有無【児発・放デイ】
- ・共同生活ですので利用者同士の相性が合わないケースがしばしばあります【共同生活援助】
- ・感情のコントロールをするためのトレーニング方法がない
- ・子どもを育てるのがキツイ ・児童発達支援への送迎がネック【児発】
- ・宿泊施設が足りない。親が高齢となり、家から送り出しが困難となり他県他市に宿泊のできるサービスに移行されるケースが少しずつ増えてきています。過ごし慣れた場所で生活できることを実現していくためにも必要性の高い課題であると思います。【生活介護】
- ・健康診断が受けられない。血液検査等の検査が困難であったり、病院に入ることが難しい方もいます。定期的な健診を受け、治療が困難な状況でみづかり助からないケースもあったため対応が必要だと感じています。【生活介護】
- ・集団生活の場合なので、利用者同士のコミュニケーションのとりかた。自分の事を理解してもらえているかと感じていたりするので、安心して生活できる環境を整える

ようにしています。【生活介護、就労継続支援】

- ・特に児童に関するサービスにおいて希望通りに利用できる事業所が少ない。
- ・学校を卒業した後は、放課後等デイサービスなどが利用できなくなるため、両親が仕事をセーブしなければならないのか不安。【計画相談支援】
- ・利用者様よりどの様なサービスが受けれるのかが分からないと言われます。希望時間にサービスが利用できない場合がある、タクシーを利用したいがタクシー代金が高く1回の割引が1000円だとタクシーを使うのも躊躇してしまい病院に行きたくてもなかなか行けないといった声が寄せられています。
- ・地域における安定した在宅生活継続のため、支給決定の柔軟運用および人材確保施策の強化を求めたいです。【居宅介護】
- ・通所事業所の数が少ない事。【計画相談支援】
- ・もっと回数を増やしたい。契約している方の悩みではありませんが、短期利用を希望されているが現状、契約が出来ていない方も多くいます。(人員不足のため)”【短期入所】
- ・インクルーシブが求められている状況下、一部の認定こども園において通所者の受入れ拒否があると伺っております。このようなクレームの対応を行政サイドからは是非お願いしたいと思います。【児発】
- ・特に保護者からの寄せられる悩みが多いのですが、親亡き後の暮らしについて、グループホームに入居している方については財産管理についての相談をよく受けます。【共同生活援助】
- ・もっと通いたい。(事業所の利用者がいっぱい利用制限がある)【放デイ】
- ・延長対応して欲しい、現在は人員が不足の為、延長対応してません。【児発・放デイ】
- ・生活介護事業者の利用者から寄せられる主な課題として、行動障害が強く現れる場合への対応が挙げられます。自分の気持ちをうまく表現できず、行動として表れてしまうことに、利用者本人や家族が大きな困りごとを抱えています。家族は利用者に寄り添い、社会として求められる行動や集団生活でのルールをどのように伝え、どこまで許容すべきかを悩んでいる家族が大勢います。【生活介護】
- ・グループホームが増え入居される方が増えていますが、土日祝日の昼食はコンビニ購入か外食になっています。キッチンを使用できない為です。何か良い方法はないか、考えているところです。【就労継続支援】
- ・保育園に行っている障がい児の療育先を見つけるのが大変。最終的に当事業所にきた。療育に通わせているが、その事業所があっているのか不安だが、やめるのも不安と相談されても選ぶのは保護者なのでとしか言えない。相談支援事業所からいろいろ提案されて、押し切られる形で事業所を変えてしまった。良かったのか不安と後ろ髪ひかれる形で当事業所を去っていった。【児発・放デイ】
- ・利用日数を増やしたい。【放デイ】

(10) 災害時の対策として事業所で備えていること（複数回答）



- 災害リュック（災害避難時に必要な懐中電灯や医療用具など）【放デイ】
- 災害用トイレ【就労継続支援】
- ヘルメット・防寒資材【児発】
- 蓄電池等は1台しかないので、他のもので賄うしかありません。【居宅介護】
- ヘルメット、マスクなど【就労継続支援】
- 災害持ち出し袋等を常備【児発・放デイ】

(11) 災害対策を進める上での課題（自由記述）

【主な内容】

物資等	避難誘導等	避難所等
・保管場所の不足 ・準備のための資金が不足 ・停電対策／電源確保	・電話やメールが使えなくなった際に状況の確認 ・利用者の障がい特性や行動特性に応じた避難対応 ・実態に即した訓練やマニュアルの整備	・避難所での過ごし方 ・避難所運営における地域との連携 ・受け入れ可能な人数の把握

【回答内容】

- ・停電対策【児発・放デイ】
- ・災害対策用の設備・備品を準備するための資金の余裕がないため、補助金等の検討をお願いします。【短期入所・共同生活援助】
- ・利用者の安否確認や継続した支援体制を行なえるのかが課題です。【居宅介護】
- ・障害のある方を、無事に避難させたとして、その後の過ごし方など【放デイ】
- ・いざ災害が発生した時に、策定マニュアルに沿って行動することができるか、平常時から災害対策についての意識が持てているか、といったことが課題として挙げられる【居宅介護】
- ・支援対象者が多いため、状況の把握が難しい。電話やメールが使えなくなった際に状況の確認をすることが困難と思われる。【計画相談支援】
- ・指示理解が難しい児童の避難誘導が課題と思われます
- ・災害対策ではないですが、不審者対策の必要性を感じております【児発・放デイ】
- ・従業員への周知を徹底するのが若干難儀する点です【共同生活援助】
- ・障害児の避難所を誰も把握していない。また、歩いて行ける距離に障害児の避難所がない。【児発】
- ・木下東でグループホームを運営しているため、水害が想定される。本当に災害が発生した場合、高い確率で避難する必要が出てくる。避難経路は把握しているものの、実際に障がいをお持ちの皆様が迅速な避難ができるかは非常に不安なポイント。
【共同生活援助】
- ・物資の供給方法について確認、備蓄品をより保管したくても保管場所が足りない。
- ・地域住民との連携をとりたくても一部の住民としかつながりがなく、また地域の高齢化もすすんでおり自力での災害対策に限界を感じる。
- ・東日本大震災当日のことを思い出すと施設利用時に大災害が起きた時の対策を自立支援協議会等を通じて、より確たるものにしたい。【就労継続支援】
- ・インフラの復旧がどの程度かかるかにより対策方針の目安を確認（水道、電気、ガ

ス等)。第2次避難所としての役割、機能の確認。普段利用のある場所を優先して避難できるように受け入れ可能な人数の把握を各避難所で想定しておく。障害者の方の必要な情報について個々にまとめておく

- ・備蓄品の整備と管理において、少し大きな倉庫が必要になってきている。【生活介護】
- ・地域の方との情報共有を強化していきたい。【生活介護・就労継続支援】
- ・本相談支援事業所は、多機能型通所施設に併設されているので、対応策など一緒に考えていく必要がある。【計画相談支援】
- ・在宅の障害のある方が災害時に取り残されることのないよう、個別避難計画の実効性確保、電源支援体制の整備、及び事業所との連携強化が課題であると思います。
- ・地域でどのような住人が居るか、災害時にどのような方に支援がいるのかを把握できる様、助け合いができる様なコミュニケーションの場が欲しいと思います。【居宅介護】
- ・色々ありますが、まずは利用者自身が災害時にどこにどう避難するか、頼れるか、連絡をしてよいのか、何もわからない人が多いです。【計画相談支援】
- ・夜間の災害があった場合、スタッフ一人で複数名の利用者対応をしなければいけないこと【短期入所】
- ・複数のグループホームで同時に災害が起こった場合の対応については課題があると感じます。【共同生活援助】
- ・災害対策品を置くスペースが手狭。【放デイ】
- ・児童さんへの避難訓練を全員に実施するのはちょっと良い日にち中々無い。【児発・放デイ】
- ・災害時において、利用者の障がい特性や行動特性に応じた避難対応が難しく、職員数や役割分担の面でも十分な体制を確保することが課題となっています。また、実態に即した訓練やマニュアルの整備が十分とは言えず、個別支援計画と災害対策の連動が課題です。【居宅介護】
- ・使用建物の一部が災害区域に指定された為、利用者の安全確保のため移転を計画中です。対策を講じて使い続けることもできると思いますが、思い切って安全な場所に移動しようと計画中です。【就労継続支援】
- ・避難所との連携が難しい。学校が避難場所になっていても、事業所の避難訓練に学校が対応してくれるとは限らない。また避難場所に行くことができて、避難所の運営は地域でやる等の場合、なおさら連携が難しい。市が間に入ってくれれば助かる。【児発・放デイ】
- ・必要な物資や災害対策にかかる費用【共同生活援助】
- ・電話が使えないときの保護者との連絡手段【放デイ】

- (12) 地域で障がいのある人に対する理解を深めるために、必要だと思われること
(自由記述)

【主な内容】

地域交流等	理解促進等	その他
・地域でのふれ合いの機会の創出 ・製品、野菜等の販売 ・アートフェスなどイベントの開催	・認定こども園や学校の保護者会での公演 ・施設の利用状況等を地域の方にも理解を得る ・障がい特性を学ぶ機会	・移動の円滑化 ・立地が進むデータセンターにおける雇用の創出

【回答内容】

- ・正しい知識と特性の理解。社会モデルの考え方の浸透。【放デイ】
- ・情緒、知的、身体それぞれの困り事、支援の仕方の共有。【児発・放デイ】
- ・地域連携推進会議等で、施設の利用状況等を地域の方にも理解を得ること。【短期入所・共同生活援助】
- ・日常の中で障がいのある方と関わる機会を増やしていくことが地域の理解を深めることに繋がると感じます。【居宅介護】
- ・学級間での地域交流【放デイ】
- ・障がいを持っている方々がもっと社会に参加できるよう、積極的な環境づくりが必要だと思う【居宅介護】
- ・障がい者は交通弱者でもあるので、どんな障害があっても移動がたやすくできるようにすることで、市内繁華街などを利用しやすくなりことで、おのずとこれまで関わりのなかった人との接点が増え、課題を一つずつクリアすることが理解を深めることになると思う。【就労継続支援】
- ・一般住民、店舗等のスタッフに理解してもらうため、障害のある方と触れ合う機会を作ること。【計画相談支援】
- ・保護者、地域の方からも評価をいただきましたので、アートフェスはとてもよい取り組みであると実感しました。今後も地域交流祭等の環境を提供し、長いスパンで根付かせていきたいと考えています。【児発・放デイ】
- ・最近はグループホームも浸透してきたとは思いますが、忌避する方も一部はいますので根気強く説明していくことかと思っています【共同生活援助】
- ・啓蒙活動、イベント【児発】
- ・障がい者の社会進出を印西市として強力的にバックアップすることは良い施策と考えます。特にデータセンター事業者が多く、定常的な業務が多いため、障がいをお持ちの方も IT 業界で職務を遂行することができる大きなチャンスであり、企業側にとっても障害者雇用をアピールできるため、Win-Win 構造です。こういった取り組みを市長が推進役となり、市全体で盛り上げていくことでニュースに乗り、ロコミ

が広がり、より住みやすい街として人口をさらに増やすきっかけになると考えます。

【共同生活援助】

- ・障がいのある方と関われる機会、イベントを企画し、地域の方々と交流の場を設ける。障がい者の方が作った製品、野菜等を地域で販売したり、紹介パネル等で生活を紹介する。以上の内容を実践することで、少しずつ障がい福祉について知っていただきたいです。【生活介護】
- ・地域の方と情報の共有ができる機会をつくっていく。事業所もオープンな日を増やし、地域の方と交流できる場を作っていく。【生活介護・就労継続支援】
- ・障害のある方が地域で安心して暮らせる環境づくりのため、学校教育・地域啓発活動の充実、当事者参加型の交流機会の創出を推進していただきたくお願い申し上げます。市としての啓発活動の強化および、自治会との連携体制の構築をご検討いただきたいようお願い申し上げます。【居宅介護】
- ・障がいのある方と関わる機会を作る【短期入所】
- ・インクルーシブを推進していくことが重要と考えます。印旛学舎さんの「オソロク倶楽部」のような施設が増えれば障がいのある人との交流も増えると思います。また、認定こども園や学校の保護者会での公演などで保護者の理解を高めることが地域理解につながると思います。
- ・印西市内にもありますが、一部上場企業の事業部門では貸農園事業で障がい者雇用を代行する事業を行っており、安易な障がい者雇用はいかなるものかと。確かに大手企業といえども障がい者雇用率を充足することは年々厳しくなっており、事業内容によっては部門の切り出し等難しい会社もあることは認識しています。であるならば、障がい者雇用の未充足分を金銭解決し、その資金をもとに行政やその他団体による障がいのある方への支援の充足を図ることができるのではないかと思います。【児発】
- ・私たちの方から積極的に地域の方と関わるような取り組みをしていくことが大切だと思います。【共同生活援助】
- ・自然な交流の機会を増やす【放デイ】
- ・印西市の地域において、障がいのある人への理解を深めていくには、まず、障がいのある人が日常生活の中でどのような思いで過ごしているのかを知ってもらう機会を増やす。障がいの特性の中には外見からは分かりにくいものも多く、行動や言動ばかりが目立ってしまい、誤解を受けることがあります。そのため、学校や地域の集まり、広報などを通して、「困っている背景」や「関わり方の工夫」について、分かりやすく伝えていくことが必要だと思います。【居宅介護】
- ・いろいろな障害がありますが、わかりにくい障害の特性を知ってもらうこと。豆知識のような形で多くの人の目に届くようにするのはどうでしょうか。【児発・放デイ】
- ・障害のある人が外へ出ることが大事だと思う。【児発・放デイ】
- ・利用者の障害特性を正しく学ぶ機会の提供や当事者の声を発信する機会の提供など、継続した取り組みが必要だと思います。【共同生活援助】

(13) 市の障がい福祉施策について、日頃感じていることや意見（自由記述）

【主な内容】

施設整備関係	市の対応	その他
・千葉NTエリアへのグループホーム開設 ・精神障害者向けの地域活動支援センター ・重度の方を受け入れる施設の充実	・担当者変更による対応の違い ・縦割り行政の弊害 ・行政の積極的な関わりの必要性	・特別支援教育の体制じゅじつ ・児童サービスにおける受給者の適格性 ・小規模法人への支援

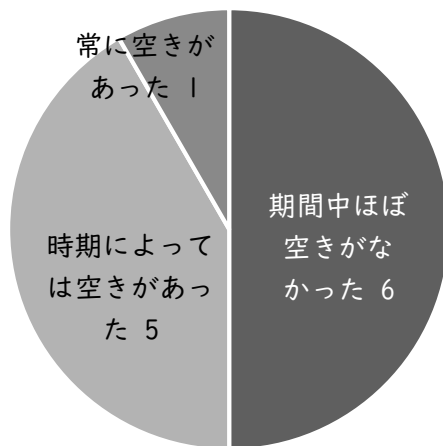
【回答内容】

- ・精神障害者むけの地域活動センターがあるといい【就労継続支援】
- ・受給者証発行の見直しをしてほしい。学童でよいのでは？という子も放デイ利用を希望されるので、本当に療育が必要な子の枠がない。【放デイ】
- ・地域の実情に合った支援が充実すると良いと思います。【居宅介護】
- ・人口増加に伴い、福祉サービスへのつながり方々変わってきている気がします。保護者は、早くから訪デイを探すなど。大変に感じます。【放デイ】
- ・障がいを持っている方々がより安心して外出できるよう、環境の整備を充実してほしい【居宅介護】
- ・市の担当者が変わると対応が180度変わってしまうことがある。【計画相談支援】
- ・印西市は障害福祉にも力を入れているように思われ感謝しております【共同生活援助】
- ・やはり特別支援学校への送迎バスが遅い。特別支援学級の体制がヒドイ【児童発達支援】
- ・千葉ニュータウンエリアに障がい者グループホームを開設したいです。小林、木下エリアに現在は施設が集中しており、なかなか利便性が高い場所に利用者が居住できないことが問題です。障がい者も便利な場所に住む権利はあります。【共同生活援助】
- ・日頃より大変お世話になっています。これからも色々ご相談にのっていただき、日々の課題等について話し合いを重ね、印西市でより良い福祉サービスが構築していけるよう、よろしくお願いいたします【生活介護】
- ・重度の方を受け入れてくれる施設が印西市にはないのでご家族様が他市に毎日送り迎えをしている現状です。印西市に施設を作っていただき発達障害がある子供が普通に暮らしていける環境が欲しいです。障害手帳を持っているけど偏見が怖いから出せない子供がいる事等、周りの人の理解がすごく必要だと思いますのでコミュニケーションの場所を沢山設けてもらい偏見をなくす様な政策をしてもらいたいと思います。【居宅介護】

- ・市長さんに障害福祉についてお話できる機会をもらえたり、他の市より大変理解があり、嬉しく思っています。市役所の方も事業所に親切で、私は印西市で良かったです。【計画相談支援】
- ・印西市は障がい福祉に前向きな行政機関と認識しております。【児発】
- ・いつも丁寧に対応していただいております。大変感謝しております。今後とも、よろしくお願い致します。【共同生活援助】
- ・いつもありがとうございます。感謝いたします。【放デイ】
- ・現在の障がい者福祉施策について、支援が大規模法人に偏っているように感じることもあり、資金や人材に余裕のない小規模法人にも目を向けた支援が必要ではないかと感じます。また、グループホームは夜勤を伴うため慢性的な人材不足が課題となっています。さらに措置の時代と比べ、現在は行政が利用者に関わる機会が減っている場面もあり、必要に応じて行政がより積極的に関わることも重要ではないかと思います。【居宅介護】
- ・縦割り行政で利用しにくかったことがありました。優先調達を利用したくて、利用者さんの仕事探して窓口に行きましたが、2 階のどこどこで聞いてください、と言われました。障害福祉事業所同士の交流があったらいいと思います。【就労継続支援】
- ・印西市はどちらかと言うと事業者まかせだと思う。また市が関わると、事務作業や調整業務が発生するので、避ける様子も感じられる。ただしやる気のある職員がいる場合は、事業所や当事者の意見を受け入れて頑張ってくれることもあるので、そのような職員が増えることを希望する。また近隣で利用者や事業所にとって良くやれている事はぜひ真似をして印西市でも取り組んで欲しいし、利用者や事業所にとってあまり良くないことは、行政にとって経費削減等のメリットがあってもやらないで欲しい。これは誰のためにやるべきことかを考えればおのずと答えは出ると思う。【児発・放デイ】
- ・相談支援体制や虐待防止センターの存在など、利用者が安心して生活できる環境が進められていると感じています。【共同生活援助】
- ・市内の福祉サービスが充実するためには、民間の力も不可欠だと思うので、そうした民間の事業者が中長期的に事業を継続しやすくする支援制度の拡充。【放デイ】

次ページ以降は児童発達支援・放課後等デイサービス事業者のみ対象

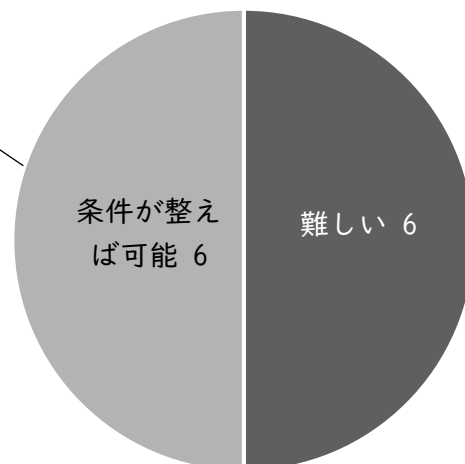
(14) 2025 年度（2025 年 4 月～2026 年 1 月）の空き状況



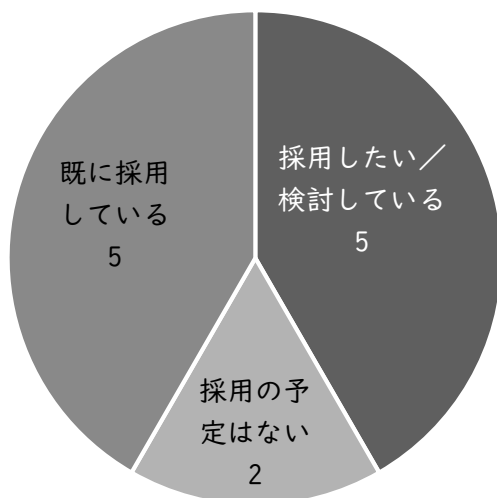
年間を通じ、半数の事業所で利用枠の空きが無い状況

(15) 利用者の受入人数を増やすことについて

- 送迎業務に関すること、さらに人員を増やすこと
- 人員が揃う
- 学校への送迎車を出すことが可能になるか
- 人員の増加
- 離職者の補充のタイミングが合えば
- 職員の増員



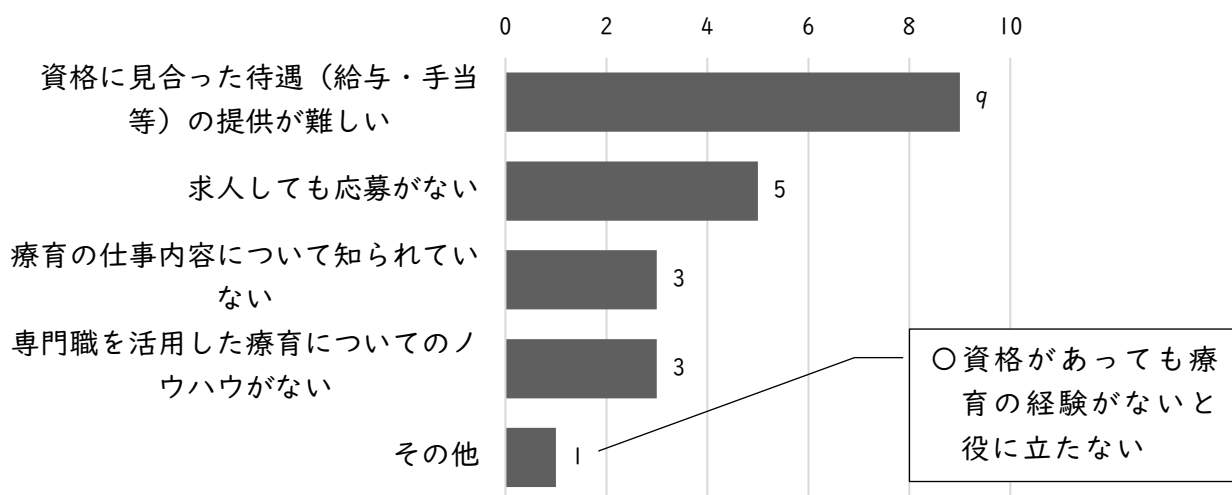
(16) 専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）の採用



(18) 専門職の採用を増やすために効果的な支援について

- 事業所における専門職の仕事内容についての周知
- 専門職への待遇の補助
- 資格保持者を優遇する仕組み作り
- 資格に見合った待遇を提供できるような補助金制度の創設

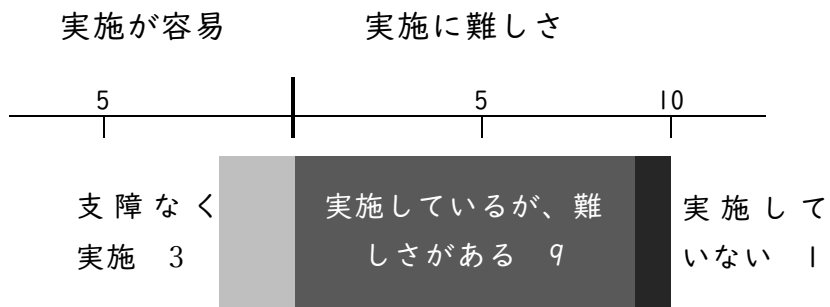
(17) 専門職の採用における課題（複数回答）



【専門職に関するその他の意見】

- ・専門職が必須だとは思わない。病院等で専門職の見立て等を得られれば、支援に生かすことはできる。
- ・コメディカル（医師・歯科医師の指示の下で業務を行う医療従事者）の養成機関は設立の背景が医療機関におけるリハビリ人材の育成が主であり、障がい分野の現場理解が養成機関の指導者の中で進んでいない（医療機関以外は本流から外れる）こと、医療機関が医師・看護師を上位とするピラミッド構造の中にあってコメディカルのヒエラルキーが低く、処遇改善を目的に安易に訪問看護業界に転職することではないかと思います。（訪問看護が本来の趣旨を逸脱している傾向が強くなっています）

(19) 学校や幼稚園、保育園との連携（情報交換など）



連携に難しさを感じて
いる事業所が多い

(20) 学校や幼稚園、保育園との連携を進めるにあたっての課題（自由記述）

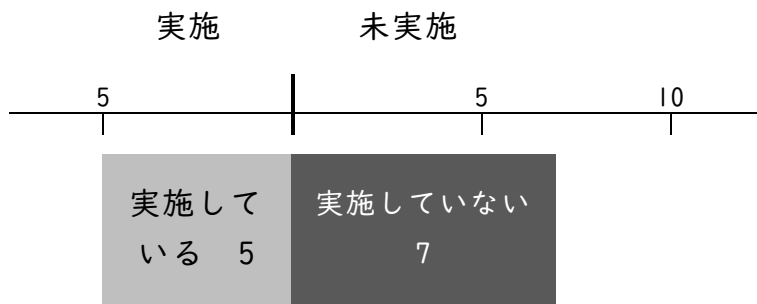
【主な課題】

- ①学校側の理解不足、消極的な姿勢
- ②個人情報の取り扱いの明確化、保護者の理解
- ③スケジュール調整

【回答内容】

- ・教育と福祉で分野が違うと言われ、学校が連携に積極的ではない。保護者の承諾があっても、情報共有の機会を持ってくれない。
- ・スケジュール調整。支援方法や記録の共有。
- ・互いに活動時間が違うこと
- ・双方が『連携および情報の共有を望んでいるか』、『必要性を感じているか』が課題だと感じます。役割や温度差は異なって良いが、連携するにあたり、ボーダーの設定は必要かと思います。また、これらを相談員が連携させていくのか、セルフプラン利用者の場合、誰が連携させていくのかで難しさを感じているのではないかと推察します。
- ・教育機関と福祉サービスの連携を図る部会の必要性を感じております。
- ・学校と情報共有をしたら保護者のクレームになった
- ・個人情報もあり、保護者とのコミュニケーションが課題になり、上手くいかないこともある。
- ・教育と福祉ということで、共有が難しい場合もある。
- ・通所者様より保育所等訪問支援の要請はありますが、そこに割ける人材の余裕がありません。実施するならば当事業者内で 1～2 番の知識技量を持つ支援員を派遣するべきと考えています。
- ・支援級の先生でも、特性に対して理解のない先生との情報交換が難しい。共有したくとも、先生によっては話づらい。
- ・時間確保は難しい。
- ・学校、幼稚園、保育園と連携するにあたって、療育がどういうものかをご理解いただけない場合がある。小学校については、先般福祉課が学校教育課と連携して一定の説明をしていただいたので、連携は取りやすくなっている。そのようなサービスの説明等を事業所任せにせず今後もやっていただきたい。
- ・それぞれの機関で連携をとれる時間帯が異なること。

(21) 事業所間の交流の状況



- 相談支援事業所が開催する勉強会に参加している
- 連絡ノートなどを利用
- 障害児が運動できる機会および社会的交流の提供を目的に合同イベントを実施。
- 平行利用している児童について、送迎時に情報交換、担当者会議への参加
- 児童発達支援センターとの情報共有は可能な限り実施している。また支援が共有できる事業者とは交流している

(22) 市子ども発達センターに期待すること、取り組んでほしいこと（自由記述）

【主な内容】

子ども発達センターが中心となり、研修や事業所間交流の実施を期待する意見が複数寄せられた。

【回答内容】

- ・ 幼児期に土台となる経験をしてほしい。
- ・ 情報共有や見学の機会があると良いと思います
- ・ 福祉サービス事業所と併用されている場合、当該児童の様子をどのように共有していくことができるのかを考えることがあります。上記（21）に加え、教育機関＋子ども発達センター＋福祉サービス事業所が連携することで、『子どもの迷い』をさらに減らせるのではないかと考えています。
- ・ 発達センターを軸にして良い療育についての研修をして欲しい
- ・ 市内に事業所が増えているので、子ども発達センターが中心となり、研修の企画などたてていただけると、他事業所との交流もできて良いと思います。
- ・ 引き続き連携を密に取り組みを継続したいと思います。
- ・ 最近の利用希望の保護者の面談を通じ、的確な情報提供やアドバイスをしていないケースが少なくないのではないかと感じます。
- ・ 旧来の指導のままのケースが多いように感じます。”
- ・ 児童療育についての指導、児童の紹介。
- ・ 相談支援事業をセンター利用以外の児童にも拡大してほしい。就学前児のみでも可
- ・ 相談支援事業所の専門性が担保できない場合もあるので。センターは少なくとも信頼できていると思っている。
- ・ センターに事業所相談窓口があってもいいと思う。療育の内容について専門的な助言を必要としている事業所もあると思う。